

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞

「より良い社会をめざして」

目黒区立第九中学校 三年

竹尾 萌

皆さんは、二年前の夏に起こった事件を覚えているだろうか。

それは、知的障害者福祉施設に元職員の男が侵入し、所持していた刃物で入所者十九名を刺殺した殺人事件である。

「障害者は不幸しか作れない。いない方がいい。」人の幸せを奪い、不幸をばらまく存在だ。」男はこのように主張する。さらには、障害者を「税金の無駄」とも言う。

そもそも税金とは、誰もが安心して生活できる幸せな社会をつくるために必要な費用のことだ。「誰もが・・・」である。幸せな社会で生きていく権利は障害者も健常者も変わらないのではないだろうか。

私には、重度身体障害を持つ妹がいる。妹は生まれてすぐに保育器に入り、二十四時間体制で治療が行われるNICUに入った。病院からの明細書には何十万円という金額が記されていたが、実際に払った金額はわずかなもので、母は驚いたそうだった。その後も具合が悪くなれば救急車で病院に行ったり、心臓手術が必要だと言われれば費用の心配なく手術を受けられたりしたのは、税金の

おかげである。納税者がいたことによってつなぐた命だと言っても過言ではない。本当に感謝しかない。また、多くの障害者が利用する車イス、歩くことを助ける歩行器なども、税金による支援のもと購入することができている。

このように、妹だけでなく日本中の障害者が健常者と同じように安心して幸せに生活するために、税金はなくてはならないものなのだ。

健常者は、納税することによって道路がきれいになったり、犯罪や災害から人々を守ったり、社会の役に立っているという実感が湧くのもかもしれない。重度の障害者は納税もできない。だから社会のなんの役にも立っていない障害者に税金を使うことは、無駄だと言う意見があるのかもしれないが、私は違うと思う。

私は妹の付きそいで、昔よく障害児施設に遊びに行っていた。そこには様々な障害を持った子供達がいて、それぞれが自分のできないことをできるようにしようと先生方と共に努力していた。そして、それらができるようになった時、障害者は私達に、繰り返しのことの大切さやあきらめない心の強さを教えてくれる。また、落ちこんだり辛かったりした時には、表情だけでパワーをもらうことができる。そういうことで障害者は社会に貢献しているのではないかと私は思う。

今後も障害者が幸せに生活していくために税金が必要不可欠だ。しかし、そこで障害者に税金を使うのは無駄だと思わないでほしい。障害者は、その個性と共に幸せに生きようとしている。だから私は、税金によってその努力を応援して支えてほしいと思う。そして、社会がより良いものになればいいと思う。